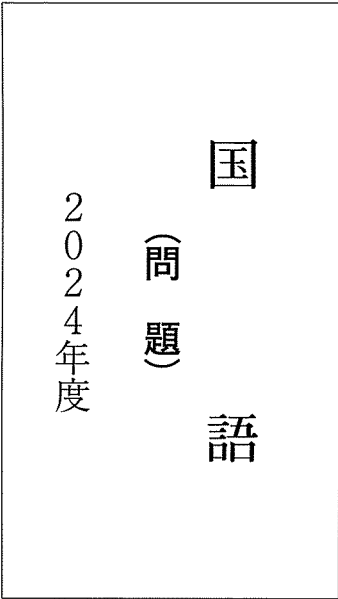




〈R06182019〉

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～12ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意
- (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
- (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- (3) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

- 5 記述解答用紙記入上の注意
- (1) 記述解答用紙の所定欄(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
- (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 6 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 7 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
- 8 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- 9 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
- 10 試験終了後、問題冊子を持ち帰ること。

(一) 次の文章は同一の著作から二つの部分(A・B)をそれぞれ抜き出したものである。文章A・Bを読んで、あとの問いに答えよ。なお、設問の都合上、表現を改めた箇所がある。

A

分かりやすい問いから始めよう。いったい人間は「自由意思」(free will)をもつのだろうか?——倫理道德のベースは、善や正義を自律的に選ぶ自由意思にある。それが否定されてしまえば、倫理道德など消滅してしまうから、自由意思は倫理を論じる大前提のはずだ。この問いは、AI・ロボットが自由意思をもちうるか、という難問につながっていく。

われわれはノドが乾いたとき、目の前にあるコップに手を伸ばして水を飲むことができる。だから、人間が自由意思をもつのは当然だという気もしないではない。だが、近年の脳神経科学はこれに疑問をつきつける。水を飲むのは当人の自由意思にもとづく行為ではなく、消化器など身体がもたらす物理的／化学的反応、そして物理的／化学的反応を入力として具体的な細かい手足の動作をつかさどる脳神経システム、などのコントロールのもとにある行為だという理屈だ。誰か(何か)によつてコントロールされるなど、所与の条件のもとである行為が因果的に生じるとき、それは「決定論」のもとにあると言われる。つまり、脳神経科学者は、身体に関する物理的／化学的な条件によつてコップの水を飲むという行為が実行されたのであり、当人の自由意思などは幻想だと主張するのである。自由意思と決定論とは矛盾し両立不能と見なせるというのだ。

確かに、体調が悪いときに馬鹿な口喧嘩をして後悔するといった経験は誰にもある。だがそれなら、カッと腹を立てて殺人を犯しても、自らの意思ではなく脳の作動のせいだからと責任を逃れられるのだろうか。この問題は、軍専用AI・ロボットである自律型致死性兵器システムの行為責任とも関わってくる。AI・ロボットはあくまで所与のプログラムにしたがって因果的に作動しているだけなのだが、もし人間が本質的にデータ処理機械だとすれば、両者に帰すべき責任の相違すら分からなくなってしまうだろう。

この点について、理論生物学者である郡司ベギオ幸夫が説く「天然知能」の議論はきわめて興味深い。その内容は、超人間主義的な神がかりのAI観や、それにもとづく浅薄なデジタル技術信仰にたいする手厳しい批判である。郡司のアプローチは、人間をふくむ生命現象を内側からとらえるものであり、その意味では、後述するネオ・サイバネティクス／基礎情報学と共通している。だが、理論生物学者によるあくまで科学的な議論なので、AI・ロボットの研究者にも理解しやすいはずである。

天然知能とは、端的には、「われわれ人間の知性」のことだ。AI(人工知能)というのは基本的には三人称的・客観的な知性である(当該システムの目的に応じて入力されたデータだけからなるので、一人称的知性という面もあるが、内容的には三人称的である)。ゆえにAIは「外部」をもたない。むしろ、システム内部に新たな入力データをとりこむことはあるが、その時点でのデータの集合がAIの世界をなしており、それ以外は無視され、存在していないのと同じである。このことは、AIソフトウェアだけでなく知覚機能をそなえた物理的なハードウェアと組み合わせられたAI・ロボットについても言える。

一方、人間は「外部」をもっている。郡司のいう「外部」というのは、客観的に定義されて測定し計算できるような明確な存在ではない。「想定外の何者か」なのだ。その存在は何となく分かっているのだが、予期しないことをするかもしれないので、やってくるのをこちらが待っている他はない。そういう両義的な存在なのである。自分の世界の外部にそういうあいまいな存在が満ちている、と感づいているのが人間の知性、つまり天然知能の特徴なのだ。他人とは外部の一種であり、ゆえに郡司は人間の知性を「一・五人称的」と見なす。

では、天然知能に自由意思はあるのだろうか?——ここ有名な「トリレンマ」(trilemma)の議論が現れる。これはもともと量子力学的な議論なのだが、応用範囲が大きく拡大される。ディレンマ(dilemma)とは二つが両立しないことだが、トリレンマとは三つが並立できないことであり、言いかえるとその中の二つは同時に成立できるのである。さて、この議論によると、自由意思、決定論、局所性の三つがトリレンマをなす。ここで「局所性」というのは元来、空間的に隔てられた二つの場所で起こる出来事を、一方が他方に影響をあたえずに知ることが可能、ということだ。これは「観察(情報取得)」に関わっている。人間をはじめ生物の認知はいわゆる観察者効果(対象を知ろうとすると対象を乱してしまうこと)から逃れられないので、多くの場合、局所性をもちえない。一方、天上の神は宇宙のすべてを

同時かつ精確に知ることができるから、局所的な知性をもつ。つまり、神はある意味で「外側」から対象を観察しているのであり、超人間主義者の信じる科学技術的な観察も、実はそういう局所性が暗黙の前提なのだ。だが、生きた人間にとつての倫理的情報を考察するには、生命体として「内側」から対象を観察することが原則となる。とすると、人間は局所性を放棄することにより、自由意思と決定論を a させることが可能だという理屈になるわけだ。

B

生物特有の「内側からの観察」というネオ・サイバネティクスを思想を体現するアプローチは「サイバネティック・パラダイム」と呼ばれる。一方、これと対比されるのは「コンピュータ・パラダイム（情報処理パラダイム）」である。これはウィーナーのライバルであり、現行コンピュータの原型を設計した数学者ジョン・フォン・ノイマンを始祖とするものだ。コンピュータ・パラダイムは、 b から対象を精確に観察記述し、万事をデジタルなデータの計算に帰着させるアプローチであり、コンピュータ技術の発展とともに情報技術の中核をなすようになった。現行のAI・ロボット研究もコンピュータ・パラダイムにしたがっている。

コンピュータ・パラダイムの重要性や有効性については述べるまでもない。だが、人間とコミュニケーションするといったAI・ロボットのアプリケーションにおいては、これだけでなく、サイバネティック・パラダイムをも組み合わせることがどうしても不可欠となってくる。さもないと、人間は単なるデータ処理機械に格下げされ、残酷な抑圧が出現してしまうからだ。両者の組み合わせはいかにして可能になるだろうか。

実は、当初のサイバネティクスはコンピュータ・パラダイムの強い影響のもとにあり、外側からの視点も残存していた。ウィーナーの議論にはいわゆる情報処理に関する記述も多々あり、ここでは生物が開放系と見なされているのである。「サイボーグ」とか「サイバー空間」といった用語はこの流れから来ている。

内側からの観察という点を純粹に追求したシステム論は、物理学者ハインツ・フォン・フェルスターによって定式化され、この影響のもとに一九七〇—八〇年代にオートポイエーシス論を代表格とするネオ・サイバネティクスの思想が誕生した。これは顕著な功績だったが、同時に、大きな問題点を抱え込むことになった。ポインントはサイバネティック・パラダイムが前提とする「閉鎖性」という特徴である。

情報という概念は、工学的には開放系を前提としている。閉鎖系同士のあいだで、いかにして情報は伝達されるのだろうか？ また、個人の心が閉鎖系だとすれば、社会のコミュニケーションはどう定式化することができ、それと個々の心はどう関係づけられるのだろうか？——実際、オートポイエーシス理論においては、情報という概念は基本的に排除されている。また、ニクラス・ルーマンの機能的分化社会理論においては、社会システムは閉じており、オートポイエーシクに社会的なコミュニケーションを産出するのだが、個々の人々の心はそれぞれシステムとして独立しており、社会システムと直接つながっているわけではない。

こうして、情報社会において理論的に巨大な問題が生じた。機械内部や機械同士の通信・制御なら、 c を前提としたシャノンの情報理論とコンピュータ・パラダイムで十分だろう。だが、AI・ロボットの応用分野のように、そこに d である人間のコミュニケーションが絡んでくると、どうしてもサイバネティック・パラダイムにもとづく分析を導入し両者を組み合わせていかななくてはならない。具体的にはチャットボットと人間との会話や、機械翻訳を想起すれば明らかだろう。コンピュータはプログラムにしたがって文章中の記号を形式的に処理するだけだが、人間は時々刻々、新たに意味解釈をおこなうため、どうしてもギャップができ、不具合が生じることになってしまう。

われわれが構築している基礎情報学は、サイバネティック・パラダイムのもつこの巨大な問題の解決をめざし、さまざまな課題と取り組んでいる。ここでは簡潔にその骨子だけを述べる。まず、「情報」という概念のとらえ直しをおこなわなくてはならない。これが第一のポイントである。情報の定義は種々あるが、基礎情報学では情報を三つに分類する。もっとも根源的なのは「生命情報」であり、これは、生物によってオートポイエーシクに創出される、意味をもつ広義の情報のことだ。閉鎖系内部で産出されるので、生命情報を直接他の閉鎖系に伝えることはできない。伝達のために記号化をおこない、生命情報を共通の記号で表現したのが「社会情報」だ。これが言葉や合図などの、いわゆる狭義の情報である。ついで、社会情報を時間空間をまたいで効率よく流通させるために、最狭義の情報である「機械情

報」が用いられる。機械情報というコンピュータで処理できるデジタルなデータが典型的だが、数千年前につくられた文字も機械情報の一種に他ならない。

たとえば、胃腸の「痛み」を感じる時、それ自体は生命情報で、内側から観察されるものである。だが、医師の診察をうけて「昨日食べたもののせいかな、お腹がしくしく痛むんです」と言うなら、それは（近似的にせよ）意味を伝えるための社会情報である。そして医師が「食中毒」と診断し、パソコンで患者用のカルテのデータを入力するとき、そこで機械情報が出現するのである（「食中毒」¹⁾ JIS16 進コード²⁾ [3F29 4366 4647]）。ある町で食中毒が多発しているなら、そのデータはAIのプログラムなどで統計的にコンピュータ処理されるかもしれない。ただし、「生存」という生き物の目的と一体なのが「意味」だから、AIは食中毒の「意味」を本質的に理解しているわけではまったくないのだ。

このように、情報というものは本来、閉鎖系のなかで発生するものであり、開放系である機械はその一部を形式的に処理するだけである。機械情報のみを「情報」と見なすとき、この重要な点が看過され、人間は一種の機械部品と化してしまうのである。AI・ロボットの活用においては、必ずこのことに留意しなくてはならない。

第二のポイントは、個人の心的システムと個人が属する社会システムとの関連づけである。個々の心は閉じており、本質的に自律的だが、同時に社会的な制約を受けていることに気づくことが肝心である。社会的な制約のもとでわれわれの思考活動がおこなわれていることは述べるまでもないだろう。法律はむろんだが、そもそも言語自体が文法や語彙といった秩序体系をもっており、大きな潜在的制約となっている。原理的には人間はどんなことでも自律的に思考可能だが、社会的制約を守らなければ、事実上われわれは社会生活を送れない。社会的制約が、社会システムのコミュニケーションを成立させ、また閉鎖系同士での疑似的な意味伝達つまり社会情報の交換を可能にしているのである。

この点を明確化するために、基礎情報学では閉鎖性と開放性の理論的な架橋を試みる。具体的には、あるオートポイエティック・システムAの作動の結果をいけば素材として、別のオートポイエティック・システムBが作動するとき、「AはBの下位にある」という階層関係を導入するのである。たとえば、個人の心的システムは社会というシステムの下位にある、ということになる。重要なのは、ここで視点移動という操作がおこなわれることだ。視点が個人の心的システムにあるとき、個人の思考はあくまで自律的（オートポイエティック）に産出される。一方、視点を社会システムに移すと、そこでは社会構成員の発する社会情報を素材としてコミュニケーションが自律的（オートポイエティック）に産出される。肝心なのは、このとき、社会の視点から見ると、個々の社会構成員の心は一定の制約にしたがう他律的（アロポイエティック）なものと化す、という点なのだ。このようなシステムを基礎情報学では「⁴⁾階層的自律コミュニケーション・システムHACS」と呼ぶ。これはいわゆるオートポイエティック・システムの理論的拡張になっている。たとえば、企業と社員を考えると、社員は心中では何でも考えられるが、会社の会議では通常、議題に関する一定の枠内の文脈での発言しかおこなわない。つまり、企業が課する制約が、コミュニケーション（疑似的な情報伝達）をもたらししているのだ。

基礎情報学はネオ・サイバネティクスの一環だが、このHACSという階層的なモデルは、AI時代の倫理道德を考察するとき、きわめて有効である。というのは、⁵⁾社会システムの視点に立つとき、他律的（アロポイエティック）なAI・ロボットも、本来は自律的（オートポイエティック）な人間と近似的に同格となるからだ。ここに、サイバネティック・パラダイムとコンピューティング・パラダイムという二つのパラダイムを相互作用していく方途が見えてくる。

ただし、このアプローチで倫理道德を考えると、きわめて注意しなければならない点がある。個人の道德心は社会的な倫理規範という制約のもとにある。だがそれは必ずしも静的・構造的な関係ではない。短期的には社員の心的システム（下位）は企業という社会システム（上位）の倫理規範という制約にしたがわなくてはならないが、もしそれが（厳しすぎる職場の服装強制など）著しく不合理だと判断される場合、長期的には、倫理規範をボトムアップで動的に変えていくことも可能なのである。AI・ロボットは人間とちがいが個別の自律的な道德心をもたないので、⁶⁾こういうことは不可能だ。とはいえ、AI・ロボットがエージェントとして企業のコミュニケーションに参加し、構成員の道德心や倫理規範に間接的に影響をあたえることはできる。とりわけ、インターネットのなかでAIエージェントは大きな影響力をもちうるので、この点は今後、重要な議論となってくるだろう。

(注) JIS16進コード……日本語の文字を英数字に置き換えたもの。

HACS……Hierarchical Autonomous Communication System

問一 文章Aの傍線部1「もし人間が本質的にデータ処理機械だとすれば、両者に帰すべき責任の相違すら分からなくなってしまう」とあるが、その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 人間が自由意志をもたない場合には、ある与えられた条件のもとで人間が示す行為は、AIやロボットがプログラムにしたがって示す行為と本質的に同じであるとみなせるから。

ロ 人間が責任を負うべきことであればAIやロボットも責任を負うべきであり、また、人間が責任を負う必要がないことであればAIやロボットも責任を負う必要はないから。

ハ 決定論的な行為については、コントロールするのが物理的／化学的な条件であってもプログラムであっても、人間同様AIやロボットも責任を負わされるべきではないから。

ニ AI・ロボットは、善悪を独自に判断することができないため、重大な決断に関しては、AI・ロボットの代わりに人間が善悪の判断を行わなければならないから。

ホ 情報処理という面に関しては、AIやロボットは人間よりはるかに優れていることを前提にすると、人工知能が人間の代わりに意思決定を行うことが可能であるから。

問二 文章Aの空欄

a

に入る語句として適切なものを文章Aの本文中から三字以内で抜き出し、記述解答用紙の解答欄に記せ。なお、句読点や括弧・記号などが含まれる場合には、それぞれ一字分に数え、必ず一マス用いること。

問三 文章Aの傍線部2「局所性をもちえない」とあるが、人間をはじめ生物が局所性をもちえないことについて本文中の意味と同様に用いた具体例として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 犯罪が同じエリアの二地点で同時に発生したことで、近隣の住民はパニックに陥った。

ロ 注射をしたところ、すぐに赤く腫れ、さらに悪いことに、他の場所も腫れてしまった。

ハ 顕微鏡で花崗岩を観察中、倍率を上げたら、結晶が見えなくなってしまった。

ニ 登山中に雷鳥を写真に撮ろうとしてカメラを出そうとしたら、雷鳥は逃げていった。

ホ 特定の地域に集中的な大雨が降り続いたことで、災害のリスクが高まった。

問四

文章Aの内容に合致するものを次の中から二つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 人間の知性である天然知能は、自由意思、決定論、局所性の三つを同時に成り立たせ、矛盾なく解決できる。

ロ 近年の脳神経科学者は、身体条件によってコップの水を飲む行為が実行されたという決定論が幻想だと主張する。

ハ 倫理道德の前提条件には自由意思があるため、AI・ロボットが自由意思をもちうるかを議論する必要がある。

ニ 人間の天然知能は、主観的な知識と客観的な知識の両方を備えているため、「一・五人称的」と呼ばれる。

ホ AIは、ソフトウェアだけであろうが知覚機能をそなえたロボットであろうが、同様に客観的な知性を有する。

ヘ 天上の神は、宇宙のすべてを同時かつ精確に知ることができるため、俯瞰することができる普遍的な知性である。

問五

文章Bの空欄

b

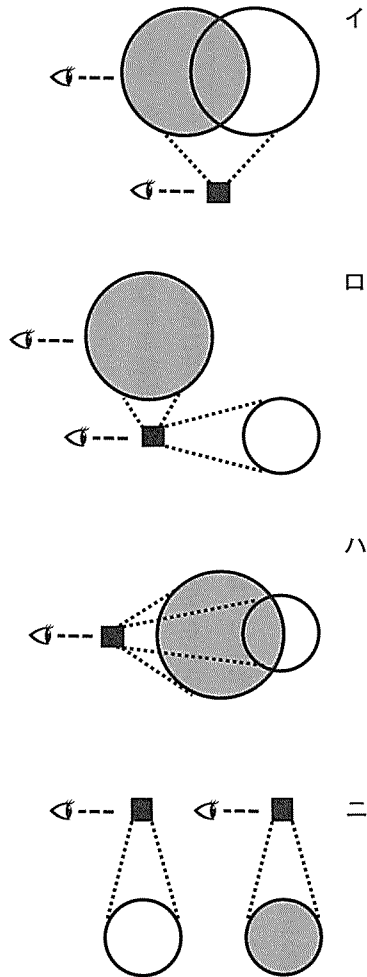
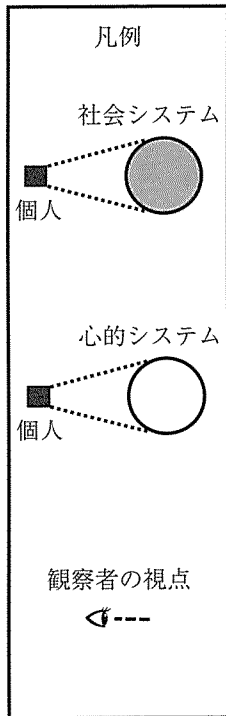
に入る語句として適切なものを文章Aの最終段落から三字以内で抜き出し、記述解答用紙の解答欄に記せ。なお、句読点や括弧・記号などが含まれる場合には、それぞれ一字分に数え、必ず一マス用いること。

問六 文章Bの空欄 c と d には、対比的な語句が入る。それぞれの空欄に入る最も適切な組み合わせを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ	c	自律	d	他律
ロ	c	効率	d	非効率
ハ	c	長期	d	短期的
ニ	c	開放系	d	閉鎖系
ホ	c	狭義の情報	d	広義の情報

問七 文章Bの傍線部3「昨日食べたもののせいか、お腹がしくしく痛むんです」と言う」とあるが、このやりとりを一般化して言い換えた表現を傍線部3を含む文よりあとから十五字以内で抜き出し、記述解答用紙の解答欄に記せ。

問八 次の図は、文章Bの傍線部4「階層的自律コミュニケーション・システム」の内容理解に基づき、四名の大学生が図式化を試みたものである。本文の内容を的確に捉えた学生の図式化として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。



問九 文章Bの傍線部5「社会システムの視点に立つとき、他律的（アロポイエティック）なAI・ロボットも、本来は自律的（オートポイエティック）な人間と近似的に同格となる」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 社会システムからみると、プログラムで動くAI・ロボットも自由意志を持つ人間も同じく下位システムに位置づけられるため、社会システムからの制約を受けるという意味でほとんど同等だとみなせるということ。
- ロ 人間は本来様々な意見を持つにもかかわらず、会社での会議というシステムから見ると議題に関する決まりきった発言しかないので、AI・ロボットに置き換えることができるということ。
- ハ コンピューティング・パラダイムの強い影響を受けるサイバネティクスから見ると、規格化された社会システムでの自律的な人間の振る舞いは、他律的なAI・ロボットと大差ない機械部品に過ぎないということ。
- ニ 機械情報が「情報」の大部分を占める社会システムから見ると、他律的なAI・ロボットは自律的な人間の問題解決を助けるパートナーであるため、倫理道徳を議論する際には人間と相互依存の関係にあるということ。
- ホ 個人の心的システムとその個人が属する社会システムの間の関係性から見ると、これと同型の関係性を、AI・ロボットが社会システムとの間に有していれば、人工知能は人間の知能と見分けがつかなくなるということ。

問十 文章Bの傍線部6「こういうこと」とあるが、その具体例として適切なものを次の中から二つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 社会規範に照らして、バスの優先席を高齢者に席を譲った。
- ロ 落ち込んでいる人のために、優しい言葉を言ってあげた。
- ハ 生徒一人一人の意見によって、校則が変更された。
- ニ 教室が汚れているのを見て、ある生徒がゴミ拾いを率先して行った。
- ホ 地球温暖化を防ぐために、エアコンの使用を控えた。
- ヘ アルバイト先の従業員が話し合い、勤務条件の改善につながった。

問十一 文章Bの内容に合致するものを次の中から二つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ AI・ロボットといったコンピュータは、あらかじめ決められたプログラムに基づいて高速に処理するため、社会情報の意味を素早く理解し、効率的に伝達することができる。
- ロ 生物によってオートポイエティックに創出される生命情報は、生き物の目的である「生存」と一体になっている「意味」を持つが、意味を伝える社会情報とは区別されている。
- ハ 人間は社会システムという制度の影響からは逃れられない一方で、多種多様な言葉を駆使するという特徴を有するので、語彙や文法からは自由に思考を巡らせることができる。
- ニ AI・ロボットを人間社会の中で活用するためには、コンピューティング・パラダイムとサイバネティック・パラダイムの二つを組み合わせることが必須の条件となる。
- ホ 数学者ジョン・フォン・ノイマンを始祖とするコンピューティング・パラダイムは、物理学者ハインツ・フォン・フェルスターによって定式化され、今日の社会にも影響を与えている。
- ヘ AI・ロボットが企業の意思決定を支援する存在として参画すれば、構成員に向けた指示を直ちに決定できるので、インターネットを介して大きな影響力をもちうる。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

ある殿上人、田舎下りのついでに、遊女を具して、上洛せられけるが、使者を先立てて、「人を具して上り候ふなり。いぶせくこそ思しめされ候ふらめ、出させ給へ」と、情け無く申されたりければ、北の方、少しも恨みたる気色なくて、「殿の、人具して上らせ給ふなるに、御設けせよ」とて、細々と下知して、見苦しき物ばかり、取りしたためて、万ありつかはしく用意して、我が身ばかり出で給ひぬ。

遊女、この事を見聞きて、大きに恐れ驚きて申しけるは、「御前の御振舞、有り難き御心ばへにておはします由、承り候ふ。且つは、事の様も見参らせ候へば、いかでかかる御すみかには住み候ふべき。身の冥加も候はじ。御前を呼び参らせて、本の如くに、この身は別の処に候ひて、時々召されば、然るべく侍りなむ。さらでは、いかでかくては、一日も待るべき」と、おびただしく誓状しける上は、殿もことわりに思はれて、北の方の情けもわりなく覚えて、使者をもて、北の方を呼び奉る。

すべて返事もなかりけれども、度々とかく申して、あひ住み給ひけり。遊女も心ある者にて、互ひに遊び戯れて、隔てなきことにてありける。ためし少なき心ばへにこそ。

また、ある人の妻、さられて既に馬に乗りける折節、雨降りければ、かの夫、「雨晴れてこそ行き給はめ」と云ひければ、妻の返事に、

³ 降らば降れ降らずは降らず降らずとて濡れで行くべき袖ならばこそ

と答へたりければ、わりなく覚えてとどめたりけるとかや。

遠江国にも、ある人の妻、さられむとて、既に馬に乗りて打ち出でけるを、人の妻のさらる時は、家の中の物、心に任せて取る習ひなれば、「何物にても取り給へ」と、夫申しける時、「殿ほどの大事の人を打ち捨てて行く体の身の何物か欲しかるべき」とて打ち笑みて、憎げもなく云ひけるに、気色まめやかにいとほしく覚えて、⁴ やがてとどめて、死にの別れになりけり。

人に憎まるるも、思はるるも、先世の事と云ひながら、心ざまによるべし。

(無住「沙石集」による)

(注) 冥加……神仏のめぐみ・加護。

誓状……誓いの文書を書いて神に誓うこと。

問十二 傍線部 a「いぶせく」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ ひどく・この上なく
- ロ まじめに・本心から
- ハ 明るく・ほがらかに
- ニ わずらわしく・不愉快に
- ホ 理不尽に・無作法なことに
- ヘ かわいらしく・不憫な様子で

問十三 傍線部 b「まめやかに」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ ひどく・この上なく
- ロ まじめに・本心から
- ハ 明るく・ほがらかに
- ニ わずらわしく・不愉快に
- ホ 理不尽に・無作法なことに
- ヘ かわいらしく・不憫な様子で

問十四 傍線部甲「上らせ給ふなる」の品詞分解として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 動詞「上らす」連用形＋謙讓語補助動詞「給ふ」終止形＋伝聞・推定助動詞「なり」連体形
- ロ 動詞「上る」未然形＋過去助動詞「き」未然形＋動詞「給ふ」連体形＋断定助動詞「なり」連体形
- ハ 動詞「上る」未然形＋使役助動詞「す」連用形＋尊敬語補助動詞「給ふ」連体形＋動詞「なる」連体形
- ニ 動詞「上る」未然形＋尊敬助動詞「す」連用形＋尊敬語補助動詞「給ふ」連体形＋断定助動詞「なり」連体形
- ホ 動詞「上る」未然形＋尊敬助動詞「す」連用形＋尊敬語補助動詞「給ふ」終止形＋伝聞・推定助動詞「なり」連体形

問十五 傍線部 i「さらでは、いかでかくては、一日も待るべき」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 正妻を追い出したのでは世間体が悪く、どうして一日だって過ごすことができるでしょうか。
- ロ あなたが正妻に未練を断ち切れずにいるような状態では、どうして一日だって過ごすことができるでしょうか。
- ハ 離縁もせずに正妻が別にいる状態では、どうしてこのようにして、一日でも心やすく過ごすことができるでしょうか。
- ニ 追い出したといっても、うるさい正妻が近くに住んでいるような状態では、一日でも心やすく過ごすことができるでしょうか。
- ホ 性格のよい正妻を追い出して、私が居座ったままでは、どうしてこのまま一日でも過ごすことができるでしょうか。

問十六 傍線部 2「雨晴れてこそ行き給はめ」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ あなたは雨が晴れてからいらっしゃるのがよいでしょう。
- ロ あなたは雨が晴れてからご出発なさることになっています。
- ハ あなたは雨が晴れたらいらっしゃるおつもりなのでしょうね。
- ニ あなたは雨が晴れるまえにご出発なさるのでしょうか（それで私は見送れません）。
- ホ あなたは雨が晴れたらいらっしゃることになるでしょうか（が、名残惜しいばかりです）。

問十七 傍線部3の和歌「降らば降れ降らずは降らず降らずとて濡れで行くべき袖ならばこそ」の下の句の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 雨が降らなかったとしても、心の中で雨は降りつづいて、私を濡らして行くことでしようから。

ロ 雨が降らなかったとしても濡れたことにしよう。春の雨にはびしょ濡れで行くのがためしなのですから。

ハ 雨が降らなかったとしても、濡れずに行ければよいでしょうが、涙のせいで濡れずにはすまないのですから。

ニ 雨が降りつづいたとしても降らなかったとしても、私の心は晴れやかで濡らすことなどできないのですから。

ホ これほどの大雨では、雨が止んだとしても、私はきつと、あたりの露で着物の袖を濡らして行くことになるでしょうから。

問十八 傍線部4「やがてとどめて、死にの別れになりにけり」とはどういうことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 夫が女性をしばらく家に残しているうちに、女性が死んでしまったということ。

ロ 夫はそのまま女性を引きとめて、死に別れるまでずっと一緒にいたということ。

ハ 夫は女性をしばらくして家に連れ戻して、死に別れるまで添い遂げたということ。

ニ 夫はそのまま出て行こうとする女性を止めることは出来ず、今生の別れになったということ。

ホ 女性が引き留めようとする夫をそこに残して、二人はそのまま死に別れることになったということ。

問十九 この文章についての説明として適切なものを次の中から二つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 一つ目のエピソードで、遊女と正妻が交友をつづけたことについて、二人を、めったにない素晴らしい心ばえだと語り手は評価している。

ロ 一つ目のエピソードで、正妻は夫に対して気持ちが離れた後も敬意ある態度をとりつづけており、語り手はそのふるまいを評価している。

ハ 二つ目のエピソードで、不幸な状況でも当意即妙な和歌を詠んでみせた女性の姿が理屈を越えて夫の心を動かした。

ニ 三つ目のエピソードで、女性は追い出される時にも、夫を置いて出て行くことを罪深いと考え、夫への要求を諦めた。

ホ 文章全体を通して、語り手は、人が愛されるかどうか、前世の因縁ですべて決まっていると考えている。

ヘ どのエピソードでも、夫の身勝手に対しても嫉妬を見せない女性が描かれており、語り手はそのような心のあり方が愛される理由だと考えている。

(三)

次の漢詩は、唐の杜甫が晩年、長江の支流を南から北へと船旅していた時の作である。この漢詩を読んで、あとの問いに答えよ。なお、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある。

小寒食舟中作

杜甫

佳辰強飲食猶寒

隱几蕭條戴鶻冠

春水船如天上坐

老年花似霧中看

娟娟戲蝶過閑幔

片片輕鷗下急湍

雲白山青万余里

愁看直北是

a

(注) 寒食……晩春の節句で、この日はかまどの火を落として冷たい食物を食べる風習があった。小寒食はその翌日。

隱几……脇息(肘掛け)に寄りかかること。

蕭條……わびしい様。鶻冠……隠者のかぶりもの。

娟娟……清らかで美しい様。

幔……薄いカーテンの類。

片片……軽やかな様。

急湍……急流、早瀬。

問二十 この詩の詩型として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 八句長歌

ロ 七言絶句

ハ 七言古詩

ニ 七字連句

ホ 七言律詩

問二十一 傍線部1「春水……霧中看」二句の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 春は水面に浮かぶ船にもやって来て、まるで天国に昇ったかの心地にさせてくれるが、船上から望み見る古木に咲く花は春霞につつまれてぼんやりとしか見えない。

ロ 春の増水によって、舟に乗っているとフワフワとして天の上に坐っているかの心地になり、年老いたせいで沿岸に咲く花がまるで霧の中で見ているかのようにぼやけて見える。

ハ 春雨が降りしきる中、船室に坐っていると、波に揺られるうちに、まるで空中に浮かんできたかの錯覚を覚え、老木に咲く花も霧雨につつまれ、まるで霧の中に咲いた花のようにぼんやり見えるばかりだ。

ニ 春の盛りに船下りをしていると爽快そのもので、天上にゆったり腰掛ける神様同様の気分になるが、ふと我に返ればやはり老いばれ、花を愛でようにも老眼のため、霧の中で鑑賞しているかのようにぼんやりとしか目に映らない。

ホ 春爛漫の大河の前方を遠く望むと、空と川が一体となり往来する船がまるで天上の乗り物のように見え、春霞に覆われた沿岸の花を船上から眺めると、まるで色とりどりの色彩が空中にちりばめられたかのように老いばれの目に映る。

問二十二 空欄 a に入る二文字の語として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 長安

ロ 故郷

ハ 洛陽

ニ 郷里

ホ 京華

問二十三 この詩の説明として適切なものを次の中から二つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 本詩の第三句から第六句の中間二聯は、船、花、蝶、鷗を静態的に描写し、文法構造も同一の、整然たる対句の組み合わせである。

ロ 第一句「佳辰……猶寒」には、異郷で迎える節句に対する好奇心が表現され、老境にあつてなお瑞々しい作者の感性がにじみ出ている。

ハ 第七句「雲白……余里」は、作者の目に映った実景を詠じたのではなく、作者の脳裏に結ばれた純然たる心象風景を言葉にしたものである。

ニ 冒頭の二句は、めだたい節句の日にわびしく隠者のかぶり物をかぶっている現状を詠じ、それが作者の理想とは隔たっていることを暗示している。

ホ この詩全体に、明るく色彩豊かになってきた春景色に対する喜びが表現され、旅の目的地へいち早く到着したいという強い願望が表現されている。

ヘ 「娟娟……」と「片片……」の二句には、船室から目にした蝶と鷗が描かれるが、思うに任せぬ我が身と対照的に、自由自在に空を飛ぶ彼らへの憧れが込められている。

〔以下 余白〕

〈R06182019〉

受験番号	万	千	百	十	一
					
氏名					



	7 (大学使用欄)
---	--------------

	5 (大学使用欄)
---	--------------

	2 (大学使用欄)
---	--------------

〈R06182019〉

受験番号	万	千	百	十	一
					
氏名					

(注意) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

15		

問七

3	

問五

3	

問二

国語

記述解答用紙